

『教育クラウドWG』 活動計画書

日本電信電話

1. WGの概要

目標

「スマート・クラウド研究会報告書」(総務省, 2010年5月)が示す教育分野のクラウド活用例である, ①学校や教育委員会単位で開設している各種システムのSaaS等を通じての提供による経費節減や負担軽減 ②教育現場で使われる教材やナレッジデータベースをクラウドを介して全国に提供することによるICT機器を活用してお互いが教え合い, 学び合う「協働教育」(フューチャースクール)の実現 ③遠隔教育における座学によらないシステム開発演習等の可能性といった各項の事例分析と検討課題に対する提言。

課題認識

教育現場のICT利活用促進と技術革新のためには, 電子教科書・教材や情報機器の統合管理や, 電子教科書・教材からクラウドの各種機能を利用するために必要なプラットフォームの標準化やコンテンツフォーマットの高度化, 校務情報システムとの連動方式, 教育クラウドと校務クラウド等の連携機能・セキュリティ分離方式等の実現・整備が, 有効かつ急務の課題となっている。

具体的検討項目

STEP1: 情報収集

初等・中等・高等教育分野において各省の推進する教育情報化施策の動向および民間主導の取組みの事例収集と, 活用されているコンテンツ, プラットフォーム, 端末の情報収集。

STEP2: 課題検討

コンテンツ, プラットフォーム, 端末, 利活用に関する検討課題の例示と, 具体化の手順検討。

STEP3: 具体化

電子教科書・教材や情報機器の統合管理, プラットフォームの標準化, コンテンツフォーマットの高度化, クラウド間連携機能に関する検討。

導入効果 (目標)

教育現場のICT利活用促進による人材育成効果と, 日本の教育現場に対応するクラウド関連の技術革新と周辺産業の活性化, 授業における利活用モデルの実証と洗練による研究者層の活性化, これらの将来的な海外展開による関連企業のグローバル化の促進。

2. WGの詳細

関連要素技術、サービス、システム

クラウド技術(校務情報システムと電子教科書・教材, eテスト間連携技術など), クラウド関連携技術(異なるプラットフォーム間の連携プロトコル, セキュリティなど), コンテンツ制御技術, コンテンツ制作技術, 端末技術, ICT利活用技術

グローバル化関連

教育現場の端末・ネットワーク整備率だけでなく, 利活用技術の体系化等の対外アピールを通じた, 電子教科書・教材や情報機器の統合管理, プラットフォームの標準化, コンテンツフォーマットの高度化, クラウド間連携機能といった一連のパッケージ型海外展開。

実施体制、役割分担

幹事

日本電信電話株式会社・NTTコミュニケーションズ株式会社

事務局

シンクタンク等(調整中)

メンバー

積極的に議論に参加いただけるJCC会員(有識者は非会員も可)。事例等の情報提供, 事例の分析や要件抽出議論, 報告書執筆を通じてWG活動に貢献いただく意思のある方は歓迎します。

対政府要望①：予算、税制支援等

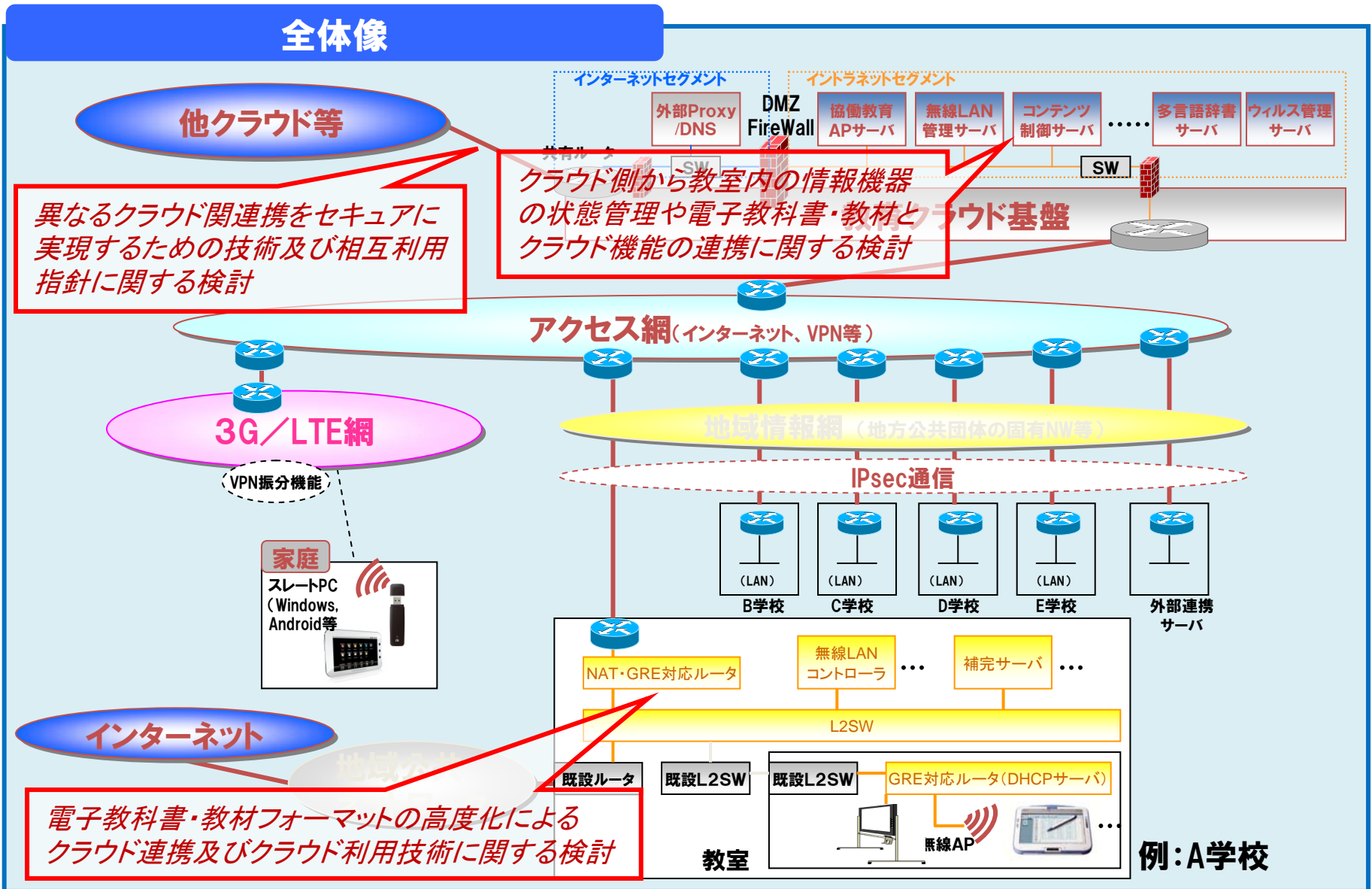
クラウド技術を活用した協働教育プラットフォーム等のサービス基盤技術開発や, 2015年のデジタル教科書の小中学校全生徒への配備, それらの活用に必須となる校内LAN整備および超高速インターネット接続等の環境整備の推進といった施策の促進, など。

対政府対応②：制度、規制緩和等

デジタル教科書・教材の利用を前提とした教科書検定制度・学習指導要領の適用, 教育クラウドと校務クラウド等の連携機能を前提とした指導要録の適用, 学校現場でのICT利活用を前提とした教員養成と教員研修の適用, など。

3. ゴールイメージ

全体像



他クラウド等

異なるクラウド関連携をセキュアに実現するための技術及び相互利用指針に関する検討

クラウド側から教室内の情報機器の状態管理や電子教科書・教材とクラウド機能の連携に関する検討

インターネット

電子教科書・教材フォーマットの高度化によるクラウド連携及びクラウド利用技術に関する検討

例：A学校

4. スケジュール

全体像

